

年間第 2 2 主日の説教

金 大烈 神父 2008 年 8 月 31 日 (日)

《今日、私は “喜び・感謝の心” を選択します》

先程、答唱詩編の中で私達が歌ったきれいな言葉があります。『乾き果てた土のように、神よ私はあなたを慕う』。これが文章としてではなく、皆様の心から湧き上がった言葉であれば、皆様は幸いです。“乾いた”ではありません、これ以上乾くことの無いほど“乾き果てている”土です。その土が望むものは『私はあなたを慕います』という心です。この様な告白が私達共同体の皆が出来るように祈りたいと思います。

さあ、今日の福音(マタイ 16・21 - 27)に入って行きましょうか。今日ペトロが叱られますよね。“サタン”という言葉まで使われるほど、ものすごく叱られます。何故叱られたのでしょうか。イエス様がおっしゃるのは『お前は神様の事を思わず、人間の事ばかり思っている』『おまえは私の邪魔をする』。きつい言葉ですよね。私達は“選択”“選び”の内に毎日を送っている事を皆様も自覚しているでしょう。“選択”には2つの種類があります。1つは一般的な、日常的な選択、そしてもう1つは“霊的な選択”です。

今日は“霊的な選択”について皆様と分かち合えればと思います。“霊的な選択”とは何でしょうか。その言葉の意味を理解する為に、使徒パウロがおっしゃった箇所を読ませていただきます。ローマの信徒への手紙7章21節『それで、善をなそうと思う自分には、いつも悪がつきまとっているという法則に気付きます』。偉大な聖人であるパウロも「私が何か良い事をしようとしている時に、隣にいてそれを邪魔しようとする、反対の方向に行かせようとする悪の勢力があるのを感じています」とおっしゃっています。

すなわち、私達の心の中に共存するものは“善に向く心”と“悪に向く心”です。自分が悪をよしとしなくても、そちらに傾いてしまう心があるのを私達は分かっています。霊的な選択とは自分の中にある心の働きから何を選択して行くかだと思います。霊的な選択には何が必要ですか。それは霊的な“分別力、識別力”です。そして、その霊的は分別力、識別力は絶え間ない祈りから生じます。

「イエス様、私はどちらの道を選んで良いか分かりません、どちらについて行くのが私にとって幸せになるのかわかりません。迷っています。正しい識別力を下さい」という祈りによって私達は正しい道を歩めます。使徒パウロさえ叫んだ自分の中にある弱さ。何故私は良い事をしようとするのに、その中に違う勢力があるのか、何故私は出来るだけきれいな姿を見せようとするのに、腐っている自分の姿が見えるのか。共に私達は逝きます。ですから生ある時は、私達は絶えず霊的な緊張感の内に自分を見なければならぬのです。負けないように、悪い傾きに負けないように。自分との戦いを避けてはいけません。その為にはやはり祈りが一番大事なことだと思います。即ち、祈りによってです。

今日叱られたペトロを思いながら私達の事も振り返ってみましょう。私は神様の事と自分の事がぶつかる時にどの様な気持ちになるか。イエス様が自分に対し『教会に行つてミサに与つて欲しい』と思つていらつしゃる事が分かつて、自分はお風呂に入つたり、テレビを見たり自分の時間をとりたいたいという思いがある。その時何を選びますか。簡単な例え話かも知れませんが、この様に“選択しなければならぬ事”は私達の前に沢山あります。その時、霊的な分別力を求めながら、正しい道を選ぶと努力がなければ、今日私達が歌つた『乾き果てた土のように、神よ、あなたを慕います』という心は生まれては来ないのです。

皆様に提案します。私達は毎朝、目が覚めた時何を思うのでしょうか。何を考えるのでしょうか。イエス様の前で約束してみましょう。朝、目が覚めた時「今日、私は喜びを選びます、感謝の気持ちを選択します」と。やってみましょう。目が覚めた時決めた心はその日一日中続きます。朝がきれいに開

けたらきれいな夜を迎えられます。今日の御ミサを通して決心してみましよう。初めのうちは忘れる事があっても、続ける事によって、努力する事によって身についていくと思います。そうすると夜寝る時に「感謝します。今日一日色々な事が有りましたが、あなたの事を忘れませんでした」という感謝の祈りが出来ると思います。

最後に少し聖書と離れた話をします。徳川家康をご存じですよね。その時代にキリシタンと呼ばれるキリスト教の信徒達が沢山いました。そしてその人達は色々な迫害を受けました。幕府の勢力により多くのキリシタンが追われました。その追われた人々の1つの群れが群馬にも来ました。その人々は隠れキリシタンとなり群馬に住みました。中でも一番多かったのが館林でした。館林からまた広がって邑楽町にも大勢の隠れキリシタンがいたのです。そしてその跡とか遺跡が沢山残っています。私も何日か前にその話を始めて聞きました。

5年前から有志の信者さん達はその跡を探し、よい発見がありました。邑楽町にも隠れキリシタンがいたと言うことは、言葉を代えれば太田教会の建つこの土地は“聖地”です。600年というカトリックの歴史、その歴史が生きている、いわゆる聖地を持っている教会です。9月15日(月)休日ですが、その跡をたどり一緒に歩んでみたいと思います。朝8時半、お弁当持ちで教会集合です。山道もあるので沢山の人は入れません。先着20名の方とさせていただきます。興味の有る方いらして下さい。まず、私達の“家”である邑楽町を訪れます。色々な実りを見ることが出来ると思います。館林や古河も訪れます。時間が取れる方は是非参加してみてもどうでしょうか。

ありがとうございました。